

## 北岳報告書

### 1. 期間

2018年6月23日～24日

### 2. 場所

山梨県南アルプス市 北岳



### 3. タイムテーブル

	往路				
ポイント(登り)	広河原	白根御池小屋	小太郎尾根分岐	北岳肩ノ小屋	北岳山頂
予定(到着/出発)	10:58/11:05 (6/23)	14:45/5:00 (6/24)	8:00/8:05	8:35/8:40	9:20/9:40
実際(到着/出発)	10:58/11:35 (6/23)	14:10/5:05 (6/24)		8:10/8:20	8:56/9:15
	復路				
ポイント(下り)	北岳山頂	北岳肩ノ小屋	小太郎尾根分岐	白根御池小屋	広河原
予定(到着/出発)	9:20/9:40	10:10/10:15	10:35/10:35	12:25/12:30	14:40/15:00
実際(到着/出発)	8:56/9:15	9:35/9:45	10:12/10:25	12:15/13:00	14:55/15:00

## 4. 行程

### 4.1. 一日目

一日目は甲府駅に集合し、そこからバスに乗り予定通り広河原に到着すると、開山式が行われ



ており、天ぷらそばとさくらんぼの試食があった。試食等をして少し遅れて登り始めたところ、一年生の池田が遅れだした。そのため、先輩方が交代で彼の背負いづらい荷物を持ってきていた。小屋までは、森の中を登り続けるコースで、途中雨が降ったりやんだりを繰り返していたが、小屋についてからは雨脚が強くなり、夜まで止むことはなく、少し肌寒いくらいの気温だった。晩御飯はカレーライスとコンソメスープだったが、調理組とテント設営組に分かれてスムーズに準備をすることができていた。山で食べるご飯は格別で一日の疲れがだいぶ癒された。夜には小屋の中で縦笛の演奏者を招いた演奏会があり、普段はテント利用者は入れない小屋に入れるということもあって大方が参加していた。次の日に備えて8時には床に就いた。

### 4.2. 二日目

二日目は朝五時に起床し、テントを片付けたあとに各自朝食。時間に余裕を持って起床したものの、出発まで少し慌ただしくなってしまった。



登り始めはしばらく森の中を進み、その後徐々に視界が開けだし、雪渓に沿う開けたルートを進んでいるあたりからキタダケソウと思われる植物が見え始めた。



登るにつれて徐々に植物がなくなり始め、小太郎尾根分岐付近で森林限界を迎えた。3000m を超



えた辺りから吐き気や頭痛など高山病の症状が出始めてしまった。北ノ肩小屋付近から霧が濃くなり始め、頂上やその周辺では視界がほとんど開けなかった。





頂上は霧と雨で気温も低かったが、滞在時間は予定通り 20 分ほどだった。山頂は生憎の空模様で何も見えなかったが、個人的には日本で二番目の名峰に登りきったという大きな達成感を得ることができた。



帰り道は下り坂で足場が濡れており、多数が滑って転んだりして危なかった。足を取られてしまった人も多かった。帰りの白根御池小屋では、予定にはなかったものの、食堂で昼食を採ることになり、牛丼、中華丼、ソフトクリームなど各自頼んで食べていた。温かいご飯が心にしみるようだった。



予定外だった昼食によって、乗ろうとしていたバスの時間に間に合うか微妙だったが、昼食を採って力が少しもどったことによって下山のスピードが上がり、発車時刻の 5 分前にバス停に到着





することができた。何事もなく合宿を締めくくられてよかったが、しいて言えば晴れた景色を頂上から見渡したかったように思う。

## 5. まとめ

今回はほぼ雨の中の登山で視界や足場が悪かったが、夏合宿で同じような状況になることが多いと予想されるため、良い経験になった。装備がまだ整っていない人は、きちんとした装備の重要性を痛感した。また、雨が降ると気温が下がり、体が濡れて体温も下がるため、夏山であっても厚手の防寒着が重宝されるということが分かった。北岳では、毎年この季節に、北岳と周辺にしか生息しないキタダケソウが見られるはずだったが、キタダケソウに似たハクサンイチゲと区別がつかなかったため、これを見た方々に判断を委ねさせていただきたい。自分なりに調べたところでは、すべての写真がハクサンイチゲだったようだ。今回の合宿を通して気づいたことや反省点を次の合宿に活かしていきたい。



1



2



4



3



5